

# I-3 作物選択の拡大

## 畑地かんがいによる野菜の生産振興

本道の畑作地帯では、農業所得の拡大に向け高収益作物である野菜の生産に取り組むところが増えています。十勝管内幕別町では、畑地かんがいの整備を契機に野菜の生産が急激に増えています。

### ◆幕別町における農業の展開

幕別町は、十勝平野の中央部に位置し、小麦、馬鈴しょ、てんさい、豆類などの北海道を代表する畑作物のほか、近年は、にんじん、たまねぎなどの野菜が栽培され、露地野菜の一大産地になっています。

幕別町は、春の日照時間が長く寒暖差がある恵まれた気候である反面、作物が水分を必要とする時期に降水量が少なく、丘陵地では湿性火山灰土、河川沿いは低地土で排水性が悪いため、畑地かんがいや排水性の改善が必要でした。

このため、散水施設や暗渠排水などの整備を行い、生産性の向上による経営の安定化を図り、JA幕別町と周辺の6つのJAとの連携により運営される広域野菜生産ネットワーク「十勝中央青果団地」へ野菜を供給しています。

道営畑地帯総合整備事業 相川地区(S63~H17)  
畑地かんがい 699haほか



たまねぎへのかんがい(幕別町)

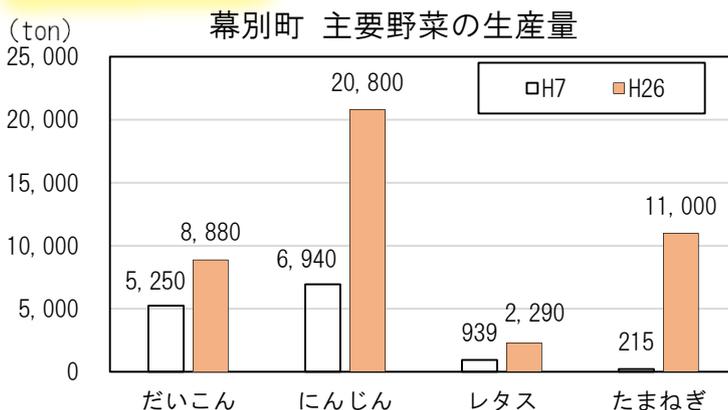


レタスへのかんがい(幕別町)

### ◆畑地かんがいによる作物選択の拡大

畑地かんがい施設の整備により、多種多様な野菜の計画的な生産を可能にしています。畑地かんがい導入前、たまねぎは、わずかな作付面積でしたが、畑地かんがい施設導入後の平成17年からJA幕別町が中心となり「たまねぎプロジェクト」を進め、平成18年には36haに栽培面積が増加し、平成24年には168haに増えたことにより、たまねぎ産地が形成されました。

### ◆整備の効果



畑地かんがいの整備により

- ◎収益性の高い野菜の生産が安定的に行えるようになりました。
- ◎だいこん、にんじん、はくさい、レタス、たまねぎ等の生産量が大幅に増加しました。

資料 農林水産省  
「作物統計調査」「特定作物統計調査」